

J・G・ハチンソン学び集

IN A LITTLE TENT

小さなテント の中

3

金の器社

教者の紹介

みなさんに、ジェームズ・G・ハチンソン兄をご紹介いたします。
ご兄弟は、約五十五年前に信仰をもたれました。

十四歳の時でした。

ハチンソン兄のお父さんは、北アイルランドの有名な伝道者です。

ハチンソン兄は、四十三年前に、伝道者として推薦されました。

そのあいだ、北アイルランド、イギリス全土を初め、十数か国で、福音と学びの奉仕を
されてきました。

今回は、カナダのバンクーバーでの大会に出席され、それから日本に来られました。初
めての来日です。

日本のあとには、マレーシアに行く予定をされています。

日本には、三週間滞在をし、各地でみことばを学んでくださいます。

どうぞ、ハチンソン兄の学びをお聞きください。

一九八九年四月

J・B・カリー

目次

教者の紹介

まえがき

第一章 ベテル・神の家

第二章 ヘブル人の奴隸

第三章 愛の詩篇（第一コリント一三章）

第四章 神に喜ばれる生活

第五章 信者の中に働く聖靈

第六章 靈的繁栄のために

第七章 ハンナの祈り

123

105

87

69

49

31

11

第八章 実を結ぶために（ホセア書）

第九章 偉大な大祭司（ヘブル人への手紙）

第一〇章 パン裂き

第一一章 パウロの靈的な生涯

第一二章 罪の赦しについて（福音）

付録

第一三章 ザンビアの働きの報告会

D・マカリスター

あとがき

254

231

215

197

179

159

139

まえがき

「馬のひづめの下から」(J・アレン著)の発行から、また五年の月日が経過いたしました。ふたたび、ここに三冊目の学び集を出版することができました。前回の「あとがき」では、「默示録」を出版したいと言いましたが、ご承知のように伝道出版社から念願の学びの本が発行されました。私も、この本の出版を心待ちにしていたうちのひとりでしたので、ほんとうにうれしいです。

そのようなわけで、金の器社では、ジエームズ・G・ハチンソン兄の学び集をお送りしたいと思います。ハチンソン兄は、今から十五年前に六十九歳のときに来日され、現在は八十四歳くらいになられていると思います。十四歳で信仰を持たれ、約二十六歳で伝道者になられたようです。先日、来日されたJ・ヘイ兄にお伺いしましたら、いまも元気でおられるとのことです。また、ハチンソン兄は、七十歳を過ぎたなら、アイルランドから出ないで働くことに決めていたようです。そうであるなら、来日されたときは、最後の海外での働きであったかもしれません。

ハチンソン兄の学びは、とてもわかりやすいと思います。ご兄弟はとても優しい方でし

た。私は、甲府集会と鶴見集会の学び会でこの学びを直接聞くことができました。この前年にJ・ギャンブル兄が（一九九四年に召天）、そして翌年にはT・ベントリー兄（「飛行機の翼の下で」の著者）が来日されています。

これで三部作のようになりました。みなさまの書棚にこの三冊が並んで置かれていたならどんなにうれしいことでしょうか。このようにつながることを想定して、最初には本の表紙をデザインしました。F兄にはほんとうにすばらしい装丁をしていただきました。私は本を手に取るたびに満足しています。

ここに、ある信者の方からの手紙を紹介します。

「尊き主の御名を贊美致します。先日は幸いな交わりをありがとうございました。本を送つて下さるとのお話に、軽い気持ちでお願いしてしまったのですが、思いのほか分厚い立派な本が届き、恐縮しております。このような「話しことば」で書かれた本を目にすることは（みことば誌を除くと）初めてのことです、少し読んでみると読み易く、学び会に出席しているかの様な臨場感が有り、新鮮な感じを受けました。時間をかけてじっくり読ませていただきます。本当にありがとうございます」

この方の感じ方は、まさにこの本の私のネライそのものです。特に「臨場感があり、新鮮な感じ」のくだりは私の心にグッとくる文章でした。

この本のタイトル「小さなテントの中で」は、表紙の裏の文章から採りました。アフリカ伝道をされた伝道者の話は読者のみなさまにとつても印象的なものとなるでしょう。その関連として、最後の章に、一つを追加しました。これはハチンソン兄のものではなく、アフリカのザンビアで伝道されていて、二〇〇一年に来日されたデビット・マカリスター兄による、ザンビアでの伝道と、集会の様子を教えていただいた報告会です。このような集会（報告会）は私にとってはめずらしいものでした。そこでみなさまにも知つていただきたく付録として加えました。また、ザンビアには、現在ある姉妹が、主にあつての医療活動の働きのために行つておられると聞いています。そのことも覚えて読んでいただけたなら喜びです。

神様が、この学び集をも、ご自身の栄光のために用いてくださいますように祈ります。また、この学びをまとめるにあたつて協力してくださった兄弟姉妹と、いろいろとご指導

をいただいた伝道出版社の編集者各位にも、ここに感謝いたします。どうもありがとうございます。
ざいました。

二〇〇四年四月

山梨にて

望月 初男

第一章 ベテル・神の家

一九八九年五月三日（水）

鶴見にて

愛する兄弟姉妹たちとともに、こうして聖書の学びの働きにあずかることは、私にとって大きな特権だと思っています。また、みなさんとともに、こうして集まることができひじょうに喜んでいます。

きょう、みなさんとともに新、旧約聖書を一か所ずつを読みたいと思います。
まず、テモテ第一の手紙三章一四節からお読みいたしましょう。

14～16節 私は、近いうちにあなたのところに行きたいと思いながらも、この手紙を
書いています。

それは、たとい私がおそらくたばあいでも、神の家でどのように行動すべきかを、あなたが知つておくためです。神の家とは生ける神の教会のことであり、その教会は、真理の柱また土台です。

確かに偉大なのはこの敬けんの奥義です。